資　料(1/2)

グローバル人材育成のための

英語教授法ワークショップ

【 午　前 】

2015年2月15日

大阪教育大学

グローバル人材育成のための英語教授法ワークショップ資料(1/2)

【 午 前 】

― 目 次 ―

HATOプログラムの概要紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
大阪教育大学教授 吉 田 晴 世

(1) 小・中連携の意義と実践 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
大阪教育大学教授 吉 田 晴 世
同 附属池田小学校 宮 本 真希子
同 附属池田中学校 石 川 剛
同 附属池田小学校 ALT サルバ ミシュカ

(2) CLIL(内容言語統合型学習)の理論と応用 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
－日本とフィンランドの小学校での実践から－
大阪教育大学教授 柏 木 賀津子
大阪教育大学大学院生 中 村 愛
森 下 祐美子
樫 本 洋 子
サルバ ミシュカ

(3) 音韻認識から文字認識への指導 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
神戸山手短期大学准教授 村 上 加代子

(4) 小学校におけるモジュールによる授業 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
追手門学院大学准教授 箱 﨑 雄 子

(5) 音声基軸に基づく文字指導 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
園田学園女子大学准教授 衣 笠 知 子

ＨＡＴＯ教員海外研修の必要性

外国語教育を担当する教員等の資質・能力の向上無くしてグローバル人材の育成はおぼつかない。

（H24.6.4 グローバル人材育成推進会議審議まとめ）

- 小学校英語の教科化
- 英語教員に求められる語学力：TOEFL iBT 79以上
- 高等学校卒業段階での英語力：英検２級→準１級

ＨＡＴＯ教員海外研修の実施経緯

- 大規模４教育大学Hokkaido／Aichi／Tokyo／Osakaでは，新たな教員養成プログラム開発を行い全国展開していくため平成24年度からHATOプロジェクトを始動。

- プロジェクトの一環として，小学校英語の教科化への対応，小・中連携をテーマに平成25～26年度に附属学校教員海外研修を実施。

ＨＡＴＯ教員海外研修の目的

HATO構成４大学が，カナダ・ビクトリア大学で実施する小学校教員・中学校英語教員向け英語教授法研修プログラムを附属学校教員に受講させることにより，その成果を勤務校に還元するとともに，帰国後の実践を通して地域及び全国の教員養成課程認定大学に発信することにより，グローバル人材育成のための英語教育の充実・高度化を促進する。

ＨＡＴＯ教員海外研修の実施状況

実施期間　2013年7月29日～8月16日【平成25年度】　２０名
参　加　者　2014年7月28日～8月15日【平成26年度】　１９名
概　　要　講義・実技指導，ワークショップ，小中高一貫校視察，
カナダ教育事情，教員資格制度の講義，史跡見学等

【午前】カナダ教育事情などの講義のほか，最先端の指導ツールを含む多彩な教授法，形成的評価法活用事例，ICT活用のためのリソースを学び，最終週にそれらを活用した模擬授業を全員が行う。

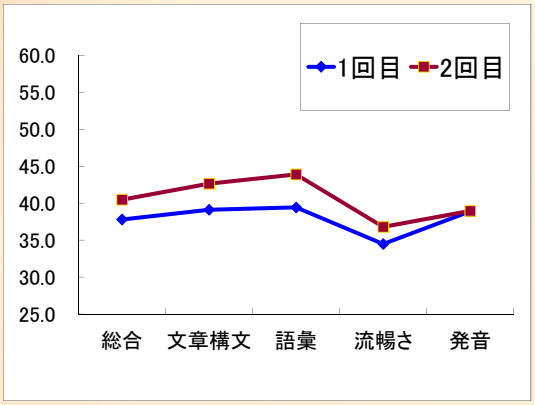
【午後】各領域のスペシャリストによる，ゲーム活動，ドラマ，歌，手話，絵画 など多種多彩なワークショップが用意され，楽しみながら英語教育に応用できる内容を学ぶ。

ＨＡＴＯ教員海外研修の効果

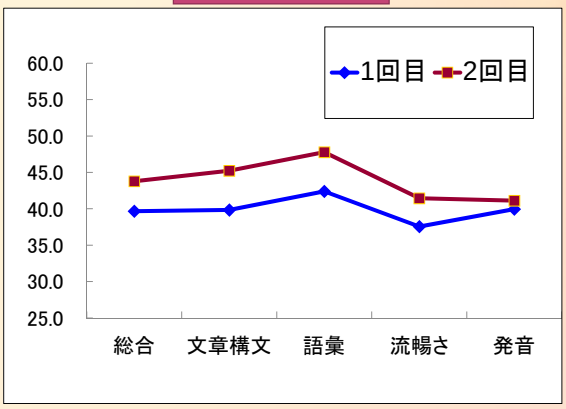
- 四大学附属学校教員が，3週間衣食住を共にし，勉学に勤しみつつ，互いの教育観を分かち合えた。
- 四大学共通の小中連携の意義と方向性を見出せた。
- 事前・事後の口頭英語能力測定の結果，語学力の伸長が確認された。
- メーリングリストによる参加者間のコミュニケーションツールが形成され，継続的に活用されている。

研修効果－英語口頭能力測定－ （Versant Test）

平成　25　年度



平成　26　年度



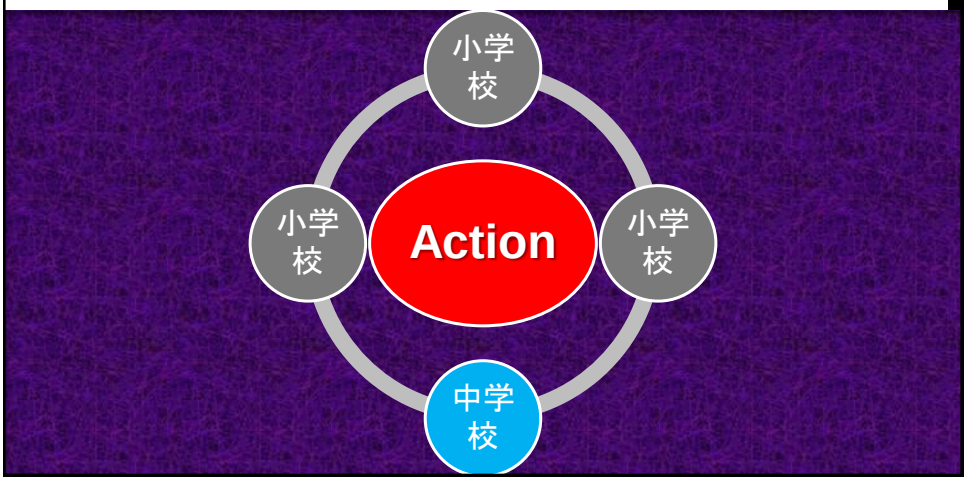
2回とも「総合」「文章構成」「語彙」「流暢さ」において有意な差をもって伸び，その差は2回目において顕著。

ＨＡＴＯ教員海外研修成果の還元

小中連携
考えてみましょう

連携とは

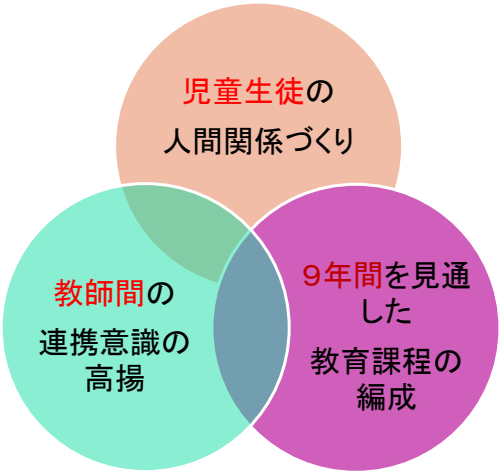
同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと



連携の第一歩

学校と家庭・地域の連携が進むにつれて，校種間（小・中），地域の子ども育成にかかわる諸団体間，さらには地域の大人と子どもの関係等々と，連携の範囲が広がる

小中連携教育の方策 三つの視点



グローバル人材育成のための英語教育

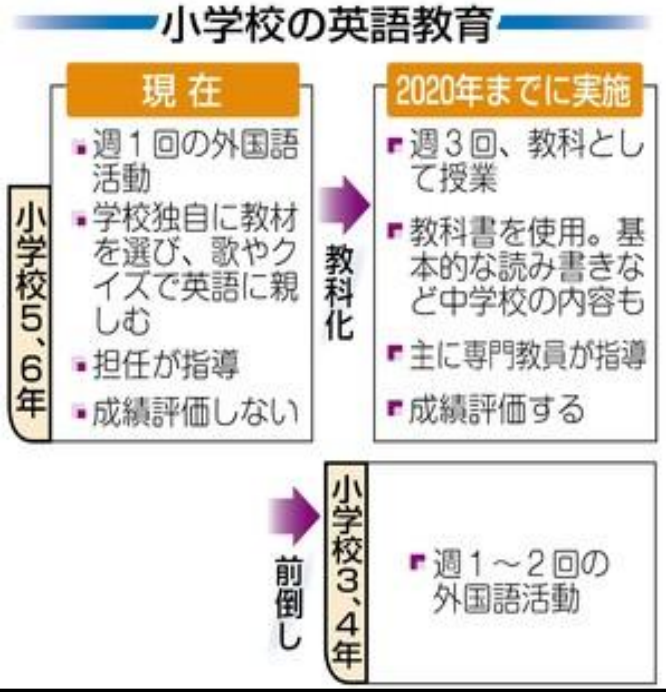
対策（英語教育強化）

外部検定試験を活用したPDCAサイクルを通じて、中学・高校段階の英語教育を強化

対策（早期英語教育）

小学校英語授業、小3に前倒し　5、

6年は**正式教科**



小学校だけ？

- 小学校だけ前倒しして、中学校が現状維持では無駄になる
- 当然、中学校の英語も大幅にレベルアップする必要がある
- 高校入試・高校以降の英語教育にも影響してくる
- 英語教育全体の見直しにつながる

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに対応できる形でスケジューリング

附属池田校地における小中連携

附属池田小学校

特色ある教育活動

- WHO International Safe School として、学校安全の発信に努めている
- 文部科学省の教育課程特例校として、週に１時間「安全科」の授業を行っている
- 思いやりと生命尊重を重視したカリキュラムによる道徳教育を行っている
- 大阪教育大学英語教育講座と連携して、専科とAET で英語の授業を行っている

国際交流
外国の学校と交流協定を結び、相互訪問

附属池田中学校

特色

- 大阪教育大学の研究校であり、学生の教育実習校
- 一般生徒、国際枠生徒（帰国生徒、在日外国籍生徒）、学校災害特別研究生徒からなる混合学級で授業を行い、新しい教育の開発を目指している
- 地球市民として人類の平和と繁栄、地球上の様々な問題の解決に積極的に貢献しようとする精神（グローバルマインド）を育成

国際交流：
「オーストラリア異文化体験研修旅行」
SINCE 1996：姉妹校生徒との国際共同学習

- 国際共同学習やホームステイでの体験等をはじめとするオーストラリアでの活動全般を通して、体験に裏打ちされたグローバルマインドの育成を目指している
- グローバルマインドとは、自文化（自己の価値観）中心 に陥らず、意見対立的な場面に建設的妥協の精神 をもって対処できる能力

平成26年度 大阪教育大学池田地区附属学校研究発表会
つながり、かさなり、ひろがる授業
（2年次）
～「知」を鍛える授業展開～
小学校・中学校・高等学校 共同研究
参加費無料
平成26年11月22日（土）
場所 大阪教育大学附属池田小学校・附属池田中学校・附属高等学校池田校舎
〒563-0026 大阪府池田市緑丘 1-5-1
TEL（072）761-3591 FAX（072）761-3594
主催 大阪教育大学池田地区附属学校
共催 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター
後援 大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・池田市教育委員会

Name:_____ Grade: 4

Class:___ Number:____ Date: 2014/ /

A. Listen and write the letter.

p-b

__ond

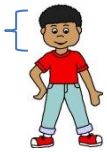
___ear

ta___

ca___

t-d

__ooth


hea__

___esk

po___

c-g

ta__

picni__

___andle

__rapes

B． 上の６つの文字から、好きな文字をえらび、チェーンのようにどんどんつなげていきましょう。

C． たん語を聞いて、最初にでてくるアルファベット文字と絵を結びましょう。

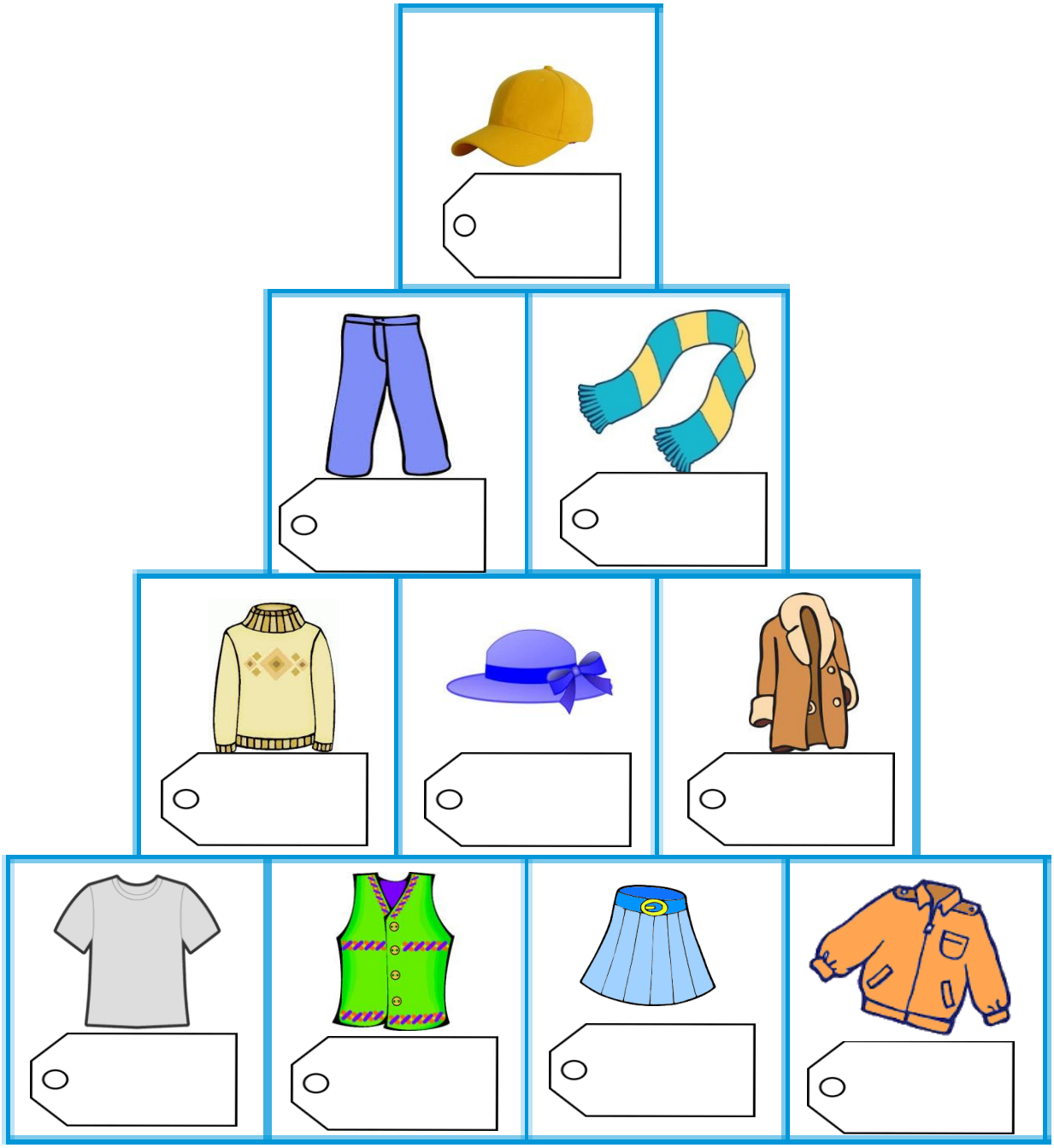
p b t d c g

Name:_____ Grade: 4 Class:___ Number:____ Date: 2014/ /

How much is the ～ ?

じゃんけんして、負けた方からしつ問をします。勝った人は好きな 1～100 の数字で値段を言います。できるだけ１０の位をかえて色々な数を言えるようにしましょう。

1__ 2__ 3__ 4__ 5__ 6__ 7__ 8__ 9__ 1__ __



小中連携の意義と実践

大阪教育大学附属池田中学校　石川　剛

11th February, 2015

現行の学習指導要領における英語教育

小学校における英語教育
○学級担任を中心に指導
○活動型 (Speaking＋Listening)
→《目標》コミュニケーション能力の素地を養う

音声中心

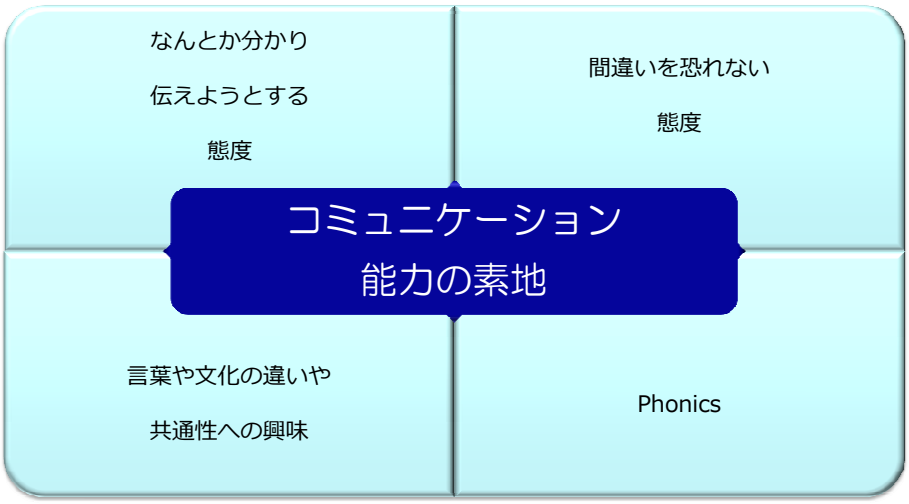
どのように小学校で得た能力を活かすか

Reading, Writing活動にどのように繋げるか

中学校における英語教育
○４技能の総合的育成
→《目標》コミュニケーション能力の基礎を養う

４技能の統合

小学校で得た
コミュニケーション能力の素地とは



国立大学法人 大阪教育大学

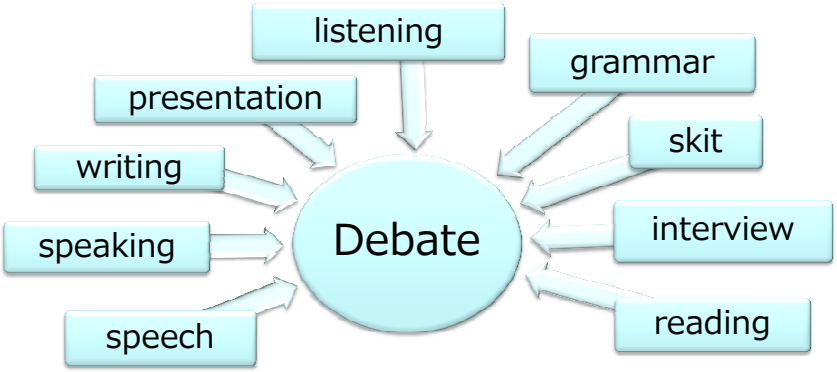
グローバル化に対応した
新たな英語教育の目標

現行
○４技能の総合的育成
→《目標》コミュニケーション能力の基礎を養う

新
○授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視
→《目標》身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う

国立大学法人 大阪教育大学

中学校での最終課題



与えられた語句や文を繰り返すことができるだけではなく、
自分の考えを伝え合うことができる力

コミュニケーション能力

国立大学法人 大阪教育大学

附属池田中学校における３年間の到達目標

	Listening	Speaking	Reading	Writing
Grade 3	200語程度の日本や外国の文化、他者の意見を正しく聞き取り理解することができる。	他者の意見を聞き、自分の意見を相手に伝え、議論ができる。	500語程度の長い英文を読み、内容を正しく理解することができる。	外国や日本文化の紹介文を書いたり、他者の意見や長文を読んで自分の考えをまとめて書くことができる。
Grade 2	100語程度の日本や外国の文化、他者の意見を正しく聞き取り理解することができる。	自分の経験や未来、夢について、相手に伝えることができる。	300語程度の長い英文を読み、内容を正しく理解することができる。	自分の経験や未来、夢について、まとめて書くことができる。
Grade 1	人物紹介や日常生活で話されている会話を正しく聞き取り理解することができる。	自分のことや日常で用いられる会話を英語で話すことができる。	100語程度の短い英文を読み、内容を正しく理解することができる。	自分のことや身のまわりのことについて英語で文章を書くことができる。

国立大学法人 大阪教育大学

日々の授業で心掛けていること

- コミュニケーションの素地を活かす
- ４技能を総合的に育成する
- UDL　<Auditory, Visually, Kinesthetic>
- 授業でしかできないことをする
  （ペアワーク、グループワーク）
- 見通しが持てる授業
  （ baby steps, rublic ）

帯活動の紹介 ～3rd grade～

- Song of the month
- Chat time
- Last Sentence Dictation
- Word Battle
- The Teacher
- The Reporter
- Book Talking
- Reading Marathon　　etc

Song of the Month

Song of the Month

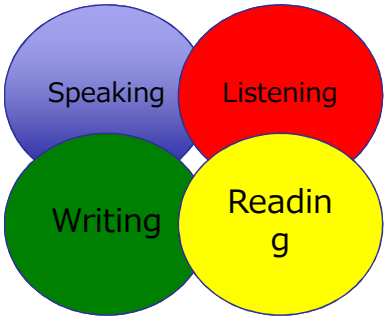
<ねらい>

- 気持ちを授業へ向ける。
- 英語に対する興味や関心を高める
- 本物に触れさせる。
- 発音　（音の繋がり）
- 語彙や表現を獲得させる。

Song of the Month

＜実施内容＞

授業開始のチャイムと同時に曲を流し、みんなで歌う。



国立大学法人 大阪教育大学

Song of the Month

＜実施手順＞

① その単元の言語材料や内容を考慮し、選曲する。

② 1時間目の授業ではまず曲を聴かせ、曲の感想や印象を書かせたり、ディクテーションさせる。

国立大学法人 大阪教育大学

Song of the Month

＜実施手順＞

③ ペアで読む練習をさせ、その後全体で音読する。その際語彙や文法に関して解説する。

④ ２時間目以降は授業開始のチャイムと同時に曲を流し、全員でパワーポイントの歌詞を見ながら歌う。歌を歌った後にあいさつを行う。

国立大学法人 大阪教育大学

Song of the Month

＜生徒の感想＞

・今まで洋楽をあまり聞いたことがなかったんですが、授業で色々な曲を聴いて好きになりました。
・速くて一つ一つの単語がはっきりと聞こえないなど自分が発音する時の参考になるからいい。
・チャイムと同時に歌が始まるので英語の時間は急いで教室に戻ります。笑
・人前で歌うことは恥ずかしいですが、英語の授業ではみんなが大声で歌っているので歌えます。
・テンポが速い曲は気合が入る。歌えるようになった時は気分がいい。

国立大学法人 大阪教育大学

The Teacher

The Teacher

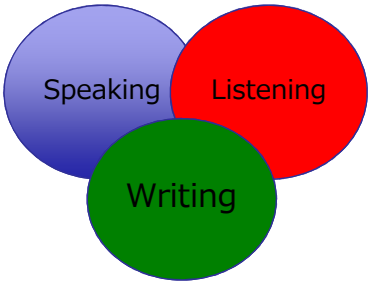
<ねらい>

・これまで学習した文を言えるようにする。
・相手の答えに対して相づちを打ったり、感想を言ったりし、会話を続ける。

The Teacher

＜実施内容＞

パートナーの生徒とともに先生になったつもりで、クラスの前に立ち、英語で他の生徒と会話する。



国立大学法人 大阪教育大学

The Teacher

＜実施手順＞

①パートナーの生徒と、どのような会話をどのような役割分担で行うか決め、練習させる。

②授業始まりの３分間「先生」として英語でやりとりを行わせる。その際、これまで学んできた様々な知識を用いて、他の生徒に質問したり、相手の返答に即興でコメントさせる。

国立大学法人 大阪教育大学

The Teacher

＜実施手順＞

③実施後はそれぞれ自己評価と感想・反省を書かせ、次の授業で提出させる。

国立大学法人 大阪教育大学

No, 19

The Teacher

○試験日：　毎回、授業始めの３分間
○実施内容：　先生になったつもりで、クラスの前に立ち、英語で生徒と会話をする。
○実施方法：　① ペアの生徒と、どのような会話を、どのような役割分担で行うか決め、練習する。
② 試験当日、３分間「先生」として授業をする。
その際、これまで学んできた様々な知識を用いて、生徒に質問する。スムーズにテンポよく。

How are you today?
What is the date today?
What day is it today?
How is the weather today?
What [　　] do you like/ have/ want/ study?
Do you have any [　　]?
What is your favorite [　　]?
I like [　　]. How about you?
What time do you usually get up?
What are you going to do this Sunday?
What's your favorite subject?

Really?　Oh, is it?
Wow!　Well…
Me, too.　Let me see…
Great!　And then?
Thank you!　Tell me more.
How about you?　Is that right?
Excuse me?　No way!
Pardon?　You're kidding.
Oh, yeah?　Go on!
Uh, huh.　I didn't know that.
Oh, do you?　What is it?
　　Oh, that's nice.

上記の反応も入れて、先生としての自然な対応に気をつけよう。
生徒役も必ず＋１の回答を行うこと。

T: What sport do you like?
S: I like soccer. I have played it for 5 years. Do you like soccer?
T: No, I don't like it. I like baseball better than soccer.

国立大学法人 大阪教育大学

The Teacher

<Rublic>

The Teacher　評価用紙

	1点	2点	3点
情報伝達 様々な語彙・文法を用いて多様な表現を使用できる	話す内容が理解できない	話す内容は理解できるが 文法的な誤りがある	様々な語彙・文法を用いて 適切に表現出来る
やりとり（テンポ） スムーズにやりとりが行われている	沈黙があり、 スムーズに質問できない	質問の際に詰まることがある	テンポよく、詰まることなく質問できる
適切な反応 ・リアクションを交えながら自然な応答ができる ・生徒の答えや質問に対して適切な応対ができる ・生徒の解答に対する応対もワンパターンでなく、学んだことや自らの知識を豊富に用いている	生徒の質問に適切に答えることができない。	生徒に質問に答えているが ワンパターンである	多様で自然なリアクション である
状況に即した言語（態度）・ボリューム ・生徒を見て声かけを行っている（アイコンタクト） ・色々な生徒に話しかけている ・相手に伝わるように話しかけている。また伝わらなかった場合も適切に応対している ・ペアの生徒と息が合っている ・全員に聞こえるようなボリュームである	1つ以下	2つ以上4つ以下	5つともクリア
発音・イントネーション 適切な発音、イントネーションで話すことができる	カタカナ英語 （努力が必要）	いくつか間違い （努力は見られる）	自然な英語

Class　　No,　　Name

国立大学法人 大阪教育大学

The Teacher

<参考>

国立大学法人 大阪教育大学

Reading Marathon

国立大学法人 大阪教育大学

Reading Marathon

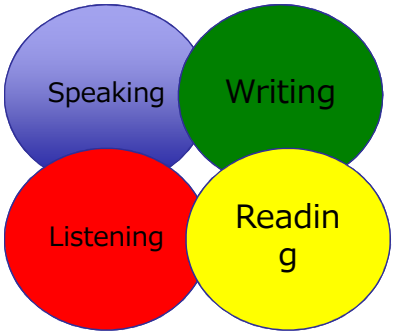
<ねらい>

- 初見の英文を読んで短時間に書いている内容を読み取る。
- キーワードを使って読んだ内容を口頭で相手に伝える。
- 文法や単語の綴りに注意して適切な文を書く。
- 語彙の獲得

国立大学法人 大阪教育大学

Reading Marathon

＜実施内容＞
　100語程度の英文を読んでその内容を理解し、それを自分の言葉で言い換える。



国立大学法人 大阪教育大学

Reading Marathon

＜実施手順＞

①100語程度で書かれた英文を１分以内に黙読させる。

②内容に関する正誤問題に答えさせ、内容確認させる。

③音声を聞きながら英文をもう一度読ませる。
　→音と綴りを一致させるため

国立大学法人 大阪教育大学

Reading Marathon

＜実施手順＞

④再度本文を読ませ、１分以内にキーワードを10語選ばせる。

⑤選んだキーワードを全体で共有するために黒板に書く。

⑥１分間で黒板にあるキーワードを見ながら本文を自分の言葉で説明する。パートナーは語数をカウントする。

国立大学法人 大阪教育大学

Reading Marathon

＜実施手順＞

⑦キーワードを見ながら３分以内に本文の要約を書く。

⑧ペアで書いた文章の確認と語数をカウントさせる。

国立大学法人 大阪教育大学

ディベート活動の流れ

- ディベートのモデルを提示
- ディベート表現集
- 賛成か反対かを述べる練習
- 事実と意見の違いを知る
- 質問の仕方の練習
- 紙上ディベート
- ピンポンディベート
- マイクロディベート
- ALTとディベート

Baby steps

国立大学法人 大阪教育大学

工夫点

①Debateのトピックを映像で導入

国立大学法人 大阪教育大学

工夫点

- 自分の意見を述べる際にSignpostを提示
  →聞き取りが苦手な生徒も参加できるように

国立大学法人 大阪教育大学